



津の海 冬景色

津の浜辺に飛来する
天然記念物 コクガン

北西の季節風が強く吹くこの季節、津の海岸部の各所では、穏やかに羽を休める海鳥の姿が見られます。この中に、国の天然記念物に指定され、環境省レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）にもなっているコクガン（黒雁）の姿をまれに見つけることができます。

コクガンは、マガン（真雁）よりやや小ぶりで、体長60cmほどの大きさです。脇から尾にかけて一部が白いものの、水面に浮かぶ姿はその名の通り黒く、白い首輪文様が特徴です。主に、ユーラシア大陸や北米大陸の北極海沿岸に生息し、日本には北海道や東北地方に飛来する冬鳥として知られます。西日本の太平洋側の地方に飛来することは少なく、安濃川・志登茂川や雲出川の河口付近での目撃は貴重な観察記録といえます。

アオサなどの緑藻を食べる習性から、波静かでエサの豊富な津の海辺が、コクガンにとって羽休めに快適な越冬環境なのでしょう。

白い首輪文様と「グルル」という低い鳴き声が特徴の冬の珍客は、津の浜辺で冬を過ごしたあと、やがて春の訪れとともに北へ向け旅立っていきます。

（「広報津」平成22年2月1日号）



安濃川河口に飛来したコクガン